

登壇者一覧

・丸山 真央

滋賀県立大学人間文化学部・教授。専門は政治社会学、都市研究。

主著に『「平成の大合併」の政治社会学——国家のリスキューリングと地域社会』（2015年 御茶の水書房）、共編著に『さまよえる大都市・大阪——「都心回帰」とコミュニティ』（2019年 東信堂）。

・上野 淳子

関東学院大学社会学部・准教授。専門は都市社会学。

論文に「「世界都市」後の東京における空間の生産——ネオリベラル化と規制緩和をめぐる」（2017年 『経済地理学年報』63(4)）、「東京都の「世界都市」化戦略と政治改革——開発主義国家がネオリベラル化するとき」（2010年 『日本都市社会学学会年報』28）など。

・植田 剛史

愛知大学文学部・准教授。専門は社会学・都市研究。

論文に「プロジェクト型開発の時代における都市計画コンサルタントの専門知——都市を作りかえる実務者からの社会的都市記述に向けて」（2021年 『年報社会学論集』34）、「高度経済成長期における「都市計画コンサルタント」の形成」（2008年 『日本都市社会学学会年報』26）など。

・平井 秀幸

立命館大学産業社会学部・准教授。専門は社会学。

主著に『刑務所処遇の社会学——認知行動療法・新自由主義的規律・統治性』（2015年 世織書房）、訳書にドーン・ムーア著『刑事司法における薬物処遇の社会学——「犯罪者/アディクト」と薬物の統治』（2015年 現代人文社）。

・仁平 典宏

東京大学大学院教育学研究科・教授。専門は社会学。

主著に『「ボランティア」の誕生と終焉——〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（2011年 名古屋大学出版会）、共著に小熊英二編著『平成史【完全版】』（2019年 河出書房新社）。

・榎村 愛子

愛知大学文学部・教授。専門は精神分析学・社会学。

主著に『この社会で働くのはなぜ苦しいのか——現代の労働をめぐる社会学/精神分析』（2019年 作品社）、『臨床社会学ならこう考える——生き延びるための理論と実践』（2009年 青土社）、『ネオリベリズムの精神分析——なぜ伝統や文化が求められるのか』（2007年 光文社）など。

・町村 敬志

東京経済大学コミュニケーション学部・教授。専門は社会学・都市研究・エスニシティ研究。

主著に『都市に聴け——アーバンスタディーズから読み解く東京』（2020年 有斐閣）、『開発主義の構造と心性——戦後日本がダムでみた夢と現実』（2011年 御茶の水書房）、『「世界都市」東京の構造転換——都市リストラクチャリングの社会学』（1994年 東京大学出版会）など。

注：登壇順。所属および職位はいずれも2023年7月31日時点。